

相良氏年表

時代	歴代当主	年号	西暦	歴史事項
鎌倉時代	初代 長頼	建久四年	・ 九二	相良頼景、肥後国球磨郡多良木に下向。上相良氏の祖となる。
		建久九	・ 九八	頼景長男の長頼、人吉に下向。矢瀬主馬佑を討ち、人吉城に入城するという。
		元久二	・ 二〇五	長頼、人吉庄の地頭に任命され、下相良氏の祖となる。
	三代 頼俊	弘安四	・ 二八	蒙古襲来（弘安の役）に、頼俊出兵する。
南北朝	六代 定頼	建武元	・ 三三四	建武の新政始まる。南北朝内乱では当初上相良氏が南朝方、下相良氏が北朝方に属し、対立する。
		正平	・ 三五六	定頼、葦北を領す。
		弘和三	・ 三八三	前頼、南朝方となり球磨・葦北を安堵される。
室町時代	七代 前頼	明徳五	・ 三九四	前頼兄弟都城で戦死、実長家督。
	八代 実長	文安五	・ 四四八	下相良氏の家督相統をめぐる内紛で、相良氏・族の山田城主永留長統、上相良家・国人たちを次々と滅ぼし、下克上により相良宗家の乗っ取りを果たし、球磨郡を統べる。
	・ 代長統			長統、相良氏の館があった佐牟田（鬼木町）の地を離れ、球磨川の南岸に人吉城を築城。
				守護菊池為邦により球磨・葦北を安堵される。
戦国時代	・ 二代 為統	寛正六	・ 四六〇	名和顕武より八代高田郷三五〇町を得る。戦国大名相良氏の誕生。
		文明二	・ 四六五	為統、大内政弘の斡旋により従五位下左兵衛門尉に任官される。人吉城の初見。
		文明八	・ 四七七	薩摩国牛屎院を譲り受ける。
		文明・六	・ 四八四	八代城主名和氏を八代から追い、豊福の支配も認められ、三郡の本格的な経営に乗り出す。
		長享元	・ 四八七	長統庶子の多良木地頭相良頼泰の乱。
		明応二	・ 四九二	為統、「七ヶ条法度」を制定する。
	・ 三代 長毎	明応七	・ 四九八	菊池武運に豊福を攻撃され、翌年には八代も奪われ、人吉に退却する。
		文亀元	・ 五〇	長毎、八代の回復のため、八代高田に城を築き、数度にわたり八代を攻撃する。
		永正元	・ 五〇四	名和氏は宇土に替地となり、八代を奪還。以後、天正九年まで八代を支配する。
	・ 四代 長祇	永正九	・ 五二	長毎の隠居。長祇家督。
		大永四	・ 五二四	長祇の家督相統に不満をもつ従兄弟の長定が反乱を起こす。
		大永五	・ 五二五	長定、人吉城に入城し、十五代となる。長祇は逃亡先の水俣で自害。
	・ 五代 長定	大永六	・ 五二六	長毎の庶子・瑞堅（長隆）が観音寺門徒などを従い人吉城の長定を追い落とす事件が起こる。

時代	歴代当主	年号	西暦	歴史事項
戦国時代	六代義滋	大永六 長禄三頃 天文二 天文三頃	五二六 五三〇 五三三 五三四	長每庶子・長唯（義滋）、瑞堅を永里城に滅ぼし、十六代となる。 球磨郡内の安定を図ると、葦北に出陣し反対勢力を駆逐し、佐敷城など築城。 八代本城・関城を新城として築く。 八代本城の麓に御内（陣内・御陣内）と麓居館を築き三郡支配の統治拠点とする。鷹峯城築城。 城下に家臣団を集住させ、商工業者も含め本格的な八代城下町が形成される。 守護菊池義宗、八代に亡命。八代陣内で政務を行なう。 相良為清（後の晴廣）、名和氏の娘と結婚する。『沙彌洞然長状』が作成される。 「市来丸」を建造し、八代徳洲港から海外貿易船を出す。
	七代晴廣	天文四 天文五 天文八 天文三 天文四 天文五 天文六 天文九	五三五 五三六 五三九 五四四 五四五 五四六 五四七 五五〇	長唯、八代の麓屋敷から陣内に移る。 長唯、官位を受領し、將軍の一字を拝領し、「義滋」と改める。戦国大名として確立する。 義滋、二十力条の式目を制定、死去。晴廣、相良家十七代当主となる。 八代衆、高塚城を改修。 晴廣、陣内に移る。
	八代義陽	弘治元 弘治三 弘治二 永禄二 永禄三 永禄四 永禄五 永禄六 永禄七	五五五 五五七 五五九 五六〇 五六一 五六二 五六三 五六四	「晴廣法度」を制定し、向宗禁制などの新たな規範を設けて相良氏の支配体制の強化を図る。 頼房（義陽）、十二歳で相良家十八代当主となる。外祖父の頼興が大殿として補佐する。 薩摩国の大口を手に入れる。 大殿の頼興が亡くなり頼興の三子である頼孝・頼堅・長蔵の上村一族の謀反が起こる。 八代衆を二分する井手方と新宮方の争いが起こる。 球磨衆を二分する頼野原大合戦がおこる。 頼房、義滋の娘千代菊と婚姻し、相良家の正当な後継者として治世に努める。 球磨に鉄砲が伝わる。頼房は鉄砲を使用した戦闘に対処できる新しい城郭づくりに着手。 高塚城を本城とする計画により改修。 頼房、十三カ所の法度制定。 頼房任官。足利將軍の一字を賜り、名を「義陽」と改める。 大口城代ら、真幸の筈ヶ尾城を攻撃し島津氏と始めて交戦する。

時代	歴代当主	年号	西暦	歴史事項
戦国時代	八代義陽	永禄十 永禄一 永禄二	五六七 五六八 五六九	大口市山合戦で島津軍と戦う。 大口初栗野合戦で島津氏と戦う。
安土桃山時代	九代忠房 二〇代長毎	天正六 天正七 天正八 天正九	五七八 五七九 五八〇 五八一	島津氏、大友・伊東連合軍を耳川合戦で破り薩摩・大隈・日向を統一。 島津氏、久木野の朴河内城を攻撃。
		天正八 天正九	五八〇 五八一	島津氏、水俣の浜口を攻め、佐敷斗石に上陸するなど義陽軍と交戦。球磨の皆越・大畑にも侵攻。
		天正八 天正九	五八〇 五八一	島津勢は大軍で水俣城を囲み、これを開城させ、義陽は島津氏に服属する。
江戸時代	二〇代長毎	天正三 天正四 天正五 天正七 文禄元 慶長元 慶長五	五八五 五八六 五八七 五八九 五九二 五九六 六〇〇	義陽、島津氏の先鋒として阿蘇氏攻略のため出陣し、響野原において討死する。義陽庶子頼貞の乱 忠房の急死により、島津氏の人質となっていた長毎が二十代となる。 長毎、島津軍とともに豊後大友氏を攻略。 長毎、豊臣秀吉と佐敷にて謁見し、球磨郡を安堵され、近世大名としての統治は始める。 豊後石工を呼び寄せ、石垣造りの人吉城の改修始まる。文禄三年、城下町立つ。 朝鮮出兵始まる。文禄の役で相良家は八〇〇名の軍勢で加藤清正とともに進軍する。 慶長の役では黒田・毛利氏などと朝鮮半島南岸の倭城の守備をし、朝鮮軍・明軍と戦う。 西軍石田三成方として伏見城を攻め、大垣城の守備をする。
		寛永一 寛永七 寛永八	六二九 六四〇 六四一	関が原合戦で徳川方に内通し、大垣城を守る石田方の武將を討ち、徳川氏に帰順する。 徳川家康は旧領を認め、翌年、米良山の支配も与える。
		寛永一 寛永七 寛永八	六二九 六四〇 六四一	相良清兵衛、二十一代頼寛によって幕府に訴えられる。人吉城の改修中断する。 清兵衛江戸に召喚。清兵衛一族が清兵衛屋敷内に立て籠もり「お下の乱」が起こる。
明治時代	二二代頼喬 三五代頼基	寛文四 文久二 明治二 明治四 明治十	六六四 八六二 八六九 八七〇 八七七	頼寛、「お下の乱」後の領民の動揺を鎮めるため、借金の赦免や青井神社の祭礼の復活を行う。 二十二代当主となった頼喬は、球磨川の開削や百太郎溝・幸野溝整備を行ない殖産に努める。 寅助火事により城下町の大半と人吉城を焼く。 十五代頼基は、版籍奉還によって人吉藩知事となる。 頼基、廃藩置県で人吉県令となるが、同年十一月に八代県となったため公職を離れる 旧人吉藩士、西郷軍に属し西南戦争に従軍。人吉町は戦場となり焼失。